

中斎塾 東京フォーラム  
平成 30 年度 第 3 回講話

平成 30 年 3 月 10 日  
於 湯島聖堂

おはようございます。時事評論を先にとということですが、お聞きします。最初から新聞をみての話から始めるか、論語の話しながら時事評論をするか、どちらがいいですか。ちょっと考えてください。

レジュメの書き方を、また次回ちょっと直します。いろいろ工夫をすることが必要のようです。

衛霊公十五

【六】子曰く、直きかな史魚。邦 道有るときも矢の如く、邦 道無きときも矢の如し。君子なるかな蘧伯玉。邦 道有るときは則ち仕え、邦 道無きときは則ち巻きて之を懐にすべし。

【七】子曰く、与に言うべくして、之と言わざれば、人を失う。与に言うべからずして、之と言え、言を失う。知者は人を失わず。亦 言を失わず。

今日の論語は、周りにまっすぐな人がいるか、正直な人がいるかを置き換えてみて、自分は正直な人間であると思っているかどうか。まっすぐな人物であると自分で思っているかどうか。そうすると他人が見ても、そう見てくれているかどうか。

私はなんと正直で、世の中のためになることをやっている。なんと素晴らしいのだろうと、選挙の時期になるとよく聞きますね。自分が票を入れた人は、どうでしょうか？考えてみてください。

「子曰く、直きかな史魚」史魚は、まっすぐ正直だね。「邦道有るときも矢の如く、邦道無きときも矢の如し」国家に道理・道徳がきちんと保たれている時も、自分の主義主張は「矢の如く」とは曲げないということです。一切曲げずに世の中に発表していき、国家が秩序なく乱れている時でも主義主張は曲げないで、相手がいれば直言していく。まっとうな時代であれば誰でもやるだろうけど、まっとうでない時代、その国に秩序がなく乱れているときでも正しく直言していく。

政治家や経済人や教育者や医者など、特にその国を司るべき地位にいる人間が、どうにもならないというような時でも、正しいと思うことを直言してまっすぐ歩いていく。これはとても大変なことです。日本にいて考えるから、あまり重く感じられないだろうと思う

けれども、北朝鮮に生きていたらどうでしょう。やっぱり殺されるのが嫌だから直言はしないでしょうね。さて、自分が日本に住み続けるという仮定で、海外へ行ったら気に入って居ついてしまうということも十分あり得る。ということで、色々この言葉を置き換えてみましょう。置き換えてみると自分の想像力が広がります。

それで今日の「邦道無きときも矢の如し」で、昨日（3月9日）の新聞です。今度プーチンさんが選挙ですが、70%は取りたいと言っているのに対して異色の共産党企業家グルディニン氏が引きずりおろそうとのこと。この人の紹介の仕方は、面白おかしい形で書いてあります。グルディニン氏はモスクワ郊外でイチゴ栽培を中心とする農業企業の社長。提出した資産公開資料によると過去6年の収入は約3億円あり記者会見で悪くない稼ぎだと明け透けに語り、共産党らしからぬ候補者だと。そしてプーチンさんの長期政権を批判している。今のところの支持率は、プーチンさんが69.7%、グルディニン氏が7.1%と書いてあります。さてお立ちあいということ。こういう書きかたをすると、このグルディニンさんはいったい何割の票を取るのかなと気になります。論語の科白で「邦道無きも矢の如し」で、この人は矢の如く直言しているのかどうなのか。

論語の科白をひとつの判断基準で考えてみるとよいと思います。ロシアの選挙は、この新聞から、どういう国になっているかを自分で考えさせてくれる。

今日の新聞読売です。韓国の文大統領について「対話路線手応えあり」と書いてあります。まず引掛かったのは、日本人に読ませるつもりがあるのかと思う。日本人に読ませるのだったら名前を「文」と漢字ではなく、カタカナで「ムン」と書けばよいのにと思いました。「文」と書かれたら「ブン」と読んでしまう。この書きかたは、北朝鮮の持っていた方向に、この新聞は迎合をしているというふうに読みました。何故なら、北朝鮮の動きを見ていると、今までは恫喝外交をずっとしていました。恫喝外交から今回の冬季オリンピックで、ほぼ笑み外交に切り換えた。北朝鮮は自分の手の平で韓国を操って、それから日本も操ろうとしているが、なかなか日本は動いてくれない。今までのメディアの流れを見ているとアメリカは軽くひねったと見えるわけです。そうするとこれは「文氏対話路線手応え」というのは手応えではなく、北朝鮮の手の平に乗って踊らされていると感じます。言いかたを変えれば、男女でみると女性の方がしたたかで男性を稼がせるために手の平に乗せて操って一生懸命に貢がせる。結婚した後は、貢ぎ物ではなくて稼いでくれと直接的になるのですが、北朝鮮はまだ結婚している状況ではない（統一が終わっていない）から、持ち上げたりくすぐったり色々している。持ち上げられて、くすぐられて手応えありなんて、本当に韓国は手応えありと感じているかどうかは分からない。これは、この新聞社の憶測です。ということはこの表題から感じました。

同じく3月10日の新聞で、今度は「トランプ流 急展開」こう書くと何かとても良いことが進んでいるように感じる。これは北朝鮮がアメリカも手玉にとっているという見出しが分かりやすい。トランプという人は、なかなか良いことをやっているのではないかと、文さんもすすんでいるよというふうに読みました。これは記事を書いた人間が名前を書くべ

きだと思う。または最後の分析者の名前、この文章に対する責任は私が負いますとかね。名前か、さもなければ顔写真を載せるべきだと思う。だってこれは得体が知れないです。何とか新聞という会社名だけで、全部なにか許されているような状況です。自分の名前が出て自分の顔写真が載ったら、こういう書きかたはしないだろうと思う。議員さんも阿呆なことをしている時は載りませんが、良いことをしている時だけ顔写真が載るのも不思議なものです。

先ほどの言葉の繰り返して「子曰く、直きかな史魚」こういう人をメディアの中、また自分の周りで比べてみたら、まっすぐで正直な人だと一本線でそう見えます。でも複眼思考で、自問自答をしてみて自分はどうか、あの人から見て、この人から見て、こちらから見てどうか。そうすると、あの人からは嫌われたいな、あの人には好かれたいなと思う。好かれたいなと思うと、まっすぐなこと言わないですね。

身の周りと自分と置き換えて、国がちゃんとしている時としていない時では、まるで違うから。日本の国はちゃんとしていると思えばそれで生きていけばいいし、他の国に行ったほうがいいなと思ったら他の国を探せばよからうということです。

その次に「君子なるかな蘧伯玉。邦道有るときは則ち仕え、邦道無きときは則ち巻きて之を懐にすべし」これは二階幹事長が浮かびました。自民党の幹事長と公明党の幹事長が国会の中で会談をして、安倍さんはけしからんねみたいなことで意見が一致した。でもこれは安倍さんを応援しましょうということだけでも、まったく分からない。表面は手を握り合って、にこにこしています。腹の中はどうか。ああいう鶴みたいになると、公明党を右足で蹴飛ばしながら、公明党は自民党を蹴飛ばしながら、それで左足はメディアを見ながら、色々なことをしていると思うのが蘧伯玉です。でもこういう説明はあまりしないでしょう。

蘧伯玉も史魚も衛の大夫と書いてあります。大夫は、自分で領地を持っている貴族ですが、貴族としてはちょっと下のランク。だから権謀術数はお手の物という人種のわけだから面従腹背なんて当たり前のことです。顔はお辞儀をしながら腹の中は全然違うし行動も違うということです。周りを見渡すというよりメディアを見ていると、もうそんなのばかり追いかけています。「邦道有るときは則ち仕え、邦道無きときは則ち巻きて之を懐にすべし」こういう文章にするとともにらしく見えるけれども、二階さんは安倍さんが順調だなどと思った時は、すんなり幹事長におさまった。あちこち渡り歩いているからそれなりの能力が身についています。これはいいぞ、蜜はたっぷりある。中国がいいと思ったらたくさんの人間を率いて行く。「邦道無きときは」もうおとなしく失速して、小沢さんだな。最近、小沢さんは出てきませんね。でも小沢さんはそのうち出てくるのだろうとは思いますが、「邦道無きとき」ではないね。邦道があるときでも我に形勢不利なときはおとなしくしている。私これを見ていてね、思ったのは貴乃花。良いのだから悪いのだから分からなくなってきた。相撲協会に道があろうが無かろうが自分の思ったことを、まっすぐ言っている。まっすぐ貫いている。メディアが取り囲むけれども、腹の中は色々あるけれども口を開く

と何か言いそうなので必死になって口を閉ざしている。言うべき時はホームページに書く。電話が掛かってきても出ない。電話が掛かってきて出るとつい腹の中にあるものを喋ってしまいそうだから、喋らないし出ない。記者が質問しても喋らない。言いたいことは文章にしてホームページなどに出す。協会が正しいと思うときも、正しくないと思うときも直言して憚らぬ。たまたま日本という国の中において、そういうポジションにいるから、自分がそれなりの実績を残したと思うから、ああいう動きなのかなと思います。

**「子曰く、与に言うべくして、之と言わざれば、人を失う。之と言え、言を失う。智者は人を失わず。亦言を失わず」**

孔子がいうには、共に語る人物、顔回のことをいっています。共に語る人物、この人物とは語り合いたい。語り合わなければ、話さなければ、その人を失うことになる。ということは、新しい方とお会いしたときに、この人とは話をゆっくりしたいものだと思う場合がある。または誰でしょうか。

この会場の中に男女どちらでもよいのですが、この人は良い人だな、この人とはお付き合いしたいなと思う人が、いるか、いないか。

いたとすれば、この人とはゆっくり話をしたいな。来月のフォーラムに来れば、その人の顔を思い出すか、どうか。また1年後でも語り合いたいと思うかな。どうでしょうかね。では言いかたを変えて、この人は私に1億円ぐらいの仕事をくれそうな人だと直感した。1年後に会った時どうだろう。覚えているかな。または素晴らしい人がいた。…今、映画で「空海」を上映していますが、その中で楊貴妃が出ています。あなたの目からみてこの人は楊貴妃だと思った。1年後またその人に会ったら、どうだろう。

人間の記憶なんてあてにならないものです。「**之と言わざれば、人を失う**」これは共に語れる人物だと思ったら、すぐつかまえろ。すぐ時間を取って話をする。「**与に言うべからずして、之を言え、言を失う**」これはよくあります。共に語る人物ではない。共に語るには足りないと思う人間と、何となくつつい話をしてしまう。「**言を失う**」は、言葉が無駄にした。無駄遣いをしたということです。よく時間をもったいなかったとなります。これはしょっちゅうあるんじゃないのかな、どうでしょうかね。腹の中にあっても言わないほうがいいですね。ただ時間を短くすればよいと思います。「**与に言うべからずして、之と言え、言を失う**」共に語るに足りない人物といえ、あまり時間を使わずに穏やかにさっと、別れるような方法を身につけると良いと取ればいいでしょう。政治家はこれ上手です。でも何度も言うけれど政治家は選挙の時だけ言うこと聞くというのは、いかがなものでしょうか。

相手の気分を害さずに、にこにこ別れば悲壯感はないでしょうが、こっぴどくやると悲壯感になるのかな。

宇野元総理は女性との別れ方が下手だったから総理大臣を棒に振ったということで、論語の解説で時事評論ならびに風刺かな。以上です。

トランプさんの話は別として、昨日今日の新聞で気になったものを申し上げます。

「土地マイナンバーで管理。所有不明者歯止め」これも大本営発表そのまま使っている。見出しと中身が本当に違う。確かにそういう部分はあるけれども本質はついていない。

これをみて思ったのは昭和 21 年 2 月 17 日の緊急措置令です。昭和 21 年 2 月 17 日に金融の緊急措置令が出た。それから財産調査令が出た。国民すべて財産をどれだけ持っているか調べられた。今まで緊急措置令については、金融しか喋らなかつたけれども、他の物もたくさん出ています。隠匿物資を隠している人達はけしからんから探せとか。農作物を買い占めた人達はけしからんから捕まえて御用にせいとか。そういう類の緊急措置令。今の日本国がマイナンバーで管理するということは、国民の財産を管理という話でしょう。昭和 21 年 2 月 17 日に国はすでにもうやっています。昭和 21 年の時は、強権発令で国民の財産を押さえましたが、現在は真綿で首を絞めるようなやり方をしているというふうにしな捉えません。それは大本営発表のものに関して迎合しながら読みました。昭和 21 年 2 月 17 日の新聞を見て、自分なりによく考えて学者の書いた物を読むと、これからの日本が、というより財務省がどういう手を打ちたいかが見えてきます。へそくりをいっぱい持っている人はどうしなさいみたいなものが過去にいっぱいあります。昭和 21 年の時に大金持ちの人達は、9 割の税金を取られました。庶民はせいぜい多く取られて 3 割くらいです。

今日の新聞で、「防災意識と行動に開きがあり」東日本大震災の記憶が薄らいできました。我々も防災をと思っているけれども実際は何もしていない。アンケート調査をしたら、東日本大震災級の災害が起きたら大変だから、何かしなければいけないという危機意識は高いけれども、実際の行動はどれだけしているかといったら、ほとんどやっていないというアンケート調査。それでこの本になります。中村天風先生の『君に成功を贈る』『いつまでも若々しく生きる』これを回します。

## 紹介書籍

『君に成功を贈る』中村天風述 日本経営合理化協会出版局

『いつまでも若々しく生きる』中村天風述 日本経営合理化協会出版局

どちらも中村天風先生の本ですが『君に成功を贈る』は、端書きが面白いと思ったので持ってきました。この端書きは、天風会の当時の理事長であった合田周平さんが書いています。その中に「足るを知る者は幸福なり、幸せなり」という文言を引用しています。それから陽明学とは、というものを引用しています。陽明学と知足を一緒に紹介した端書です。紹介するに足る書籍であるということで御紹介。

それから『いつまでも若々しく生きる』は、実行・実行ばかり書いてあります。なぜ実行が必要か。言うだけではなく実行しなければ、どうしようもないということが、分かり

やすく面白い口調で書いてある。実行・実行ということが色々書いてあります。この本の中で面白いなと思ったことは、まず自分が相手の人間を好きになるよりも、相手の人間から好かれる人になりなさい。相手の人間を好きになることは勝手に誰でもできるだろうけれども人から好かれる人間になるということは難しい。人から好かれる人間になるのには実行ということが書いてある。

そうすると防災意識と行動に開きがあるというのと直結をいたします。実行するにはということが天風先生の本の中に書いてある。それでもう一冊の陽明学は実行の学問ですから、実行しなくて何の学問か。人様の役に立たないで何の学問か。本物の学問は人の世に役に立つからこそ学問であって、役に立たない学問なんてクソくらえだ。こういう言葉は良くないか。

クソというのは米が異なると書きます。その米の栄養を吸収して出るのだから、ご苦労さん有難うというべき筋合いであって差別してはいけないと私は思います。ということで漢字は実に面白いものです。何か面白い漢字をみつけたら調べてください。その由来を調べると面白い。字源を見ると面白い。字の格好を調べていくと、どうしてこの字は成り立ったのか、どういうふうに繋がってきたのか。昔こういう意味だったけど今はまるで変わって、こういう意味になっているのか。そうすると歴史が見えてくる。本質が見えてくる。判断の三原則の本質・大局・歴史が漢字ひとつから色々見えてきます。米が異なるなんてダイエットに繋がる話で実に良いテーマ。前半の部分を終了します。

## 基本哲学

こう話をしている、この字は何と読むんだろう、どういう意味だろうといったら、自分で気になる言葉があると下を向いてスマホで調べている方もいます。ただ、それは調べばっなしにしないでください。

基本哲学で恒例の質問をいたしますので忘れないようにいたしましょう

## 恒例の質問

- ・3月に入ってから、もうだいぶ経ちましたから、良いことが多かった方。
- ・今月は比較的、嘘はついていないよ。
- ・今月は人様から有難うと言われることが結構ある。いいですね。
- ・今月は比較的、健康法をやっている。

畑中さんは周りに健康に良い物を勧めているでしょう。体を動かすことも、やっているでしょう。

畑中会員一色々やっています。

やっていますよね。最近 120 歳と言う人が増えましたね。医学的データでも人間を構成している細胞は 120 年間もつということですから、120 年間もたないで早死にする人は本人の生き様が悪い。100 歳という人は増えたけど、まだ 120 歳って少ないですね。ぜひ長生きしてください。

・昨夜寝る時に、今日は良かったなと思って寝た方。手を挙げた人はそのまま、明日は良かったなと思った方。

手が下りちゃった残念でした。

・今年に入って自分磨きをよくやっている。自分で自分を褒める人。

自分で自分を褒める人は、世間から多少悪口を言われても気にしないで、にこにこ笑って楷樹の前に立ってご苦労様とやれば良いでしょう。ちなみに楷樹は孔子様の木とか論語の木などと言いますから、時々そういうつもりで楷樹とお喋りすると良い。

以前、屋久島の巨大な杉の幹に片手で触れてじっと目をつぶっていたら、本当はしてはいけないのですが、何だか分からないけども樹の躍動感や樹の生命力みたいなのが感じました。それ以来、国内で大きな樹があると触ってみることにしています。樹だから何も言わないし触るなとも言わないのですが、面白いもので、カラカラに乾いて生命力を感じない樹がある。同じように表面は乾いているけれども、何か生命力というか躍動感溢れるような感じのする樹に出会うことがたまにあります。理由は分らないです。ただ勝手にその時自分が思うだけです。

ただもう一回、メキシコに行ってジャングルの中、巨樹に触ってみたいと思うようになりました。

屋久島の屋久杉は 1 千年経つと屋久杉と言います。地元では 1 千年未満の杉は小杉というそうです。100 年だと、赤ん坊みたいなものなのでしょう。ところがアメリカ大陸に行ってみたら、土が非常に表層的なものだから根っこは深く張れない。浅く横に広がっているだけだから、大風が吹くと倒れてしまう。したがって 100 年ぐらいもったら素晴らしいという。日本の植物は、千年以上もって一人前。アメリカ大陸のそういう場所にある植物は百年経ったら一人前の扱い。住む場所によって、まるで寿命が違うんだなと思います。

先ほどの 120 年というのは、データで裏付けされるとしたら誰が調べたのか、どういうふうに調べたのか、ということが知りたい。お医者さんの言うことは 100 年経つとかなり変わるでしょう。生きている間にだって変わります。私、飲んでる薬がありますが、専門家にみてもらくと、「この薬は害ですから止めたほうがよい」というので、係りつけの医者に聞くと、「毒にも薬にもならないが氣休めで飲んでいたら」と言います。かなり親しくなっているお医者さん。「毒にも薬にもならないのなら飲まなくて良いじゃないか」と言うと、「あなたの血圧が安定してたり、いま生きていられるというのは、これを飲んでい

るからかもしれないから、だから氣休めで飲んでなさい」ということですので、お医者さんの言うこともかなり、100年経たなくても2~30年で変わります。

したがって誰が何を言ったかというのは、新聞の読みかたと同じです。畑中さんが喋ってそれが世の中に出たら、畑中述とか畑中口述で、顔写真を載せれば、ああ、こういう顔の人かということで、少しは信頼が出来る。

脱線すると、どんどん脱線が始まってしまう。猪瀬理事長が「塾長は、人数が少なければ少ないなりに、多ければ多いなりに喋るように切りかえる」と前に言いましたけれど、最近はなくなりました。大勢であっても少なくともあまり氣にならない。頭の中に浮かんだことを浮かんだように喋ります。マイクが聞こえない時は「聞こえますか」という注意力や氣を遣うことはします。人数が少ないときは普通の音量で話をするようにしています。だからほとんど最近、人数が大勢でも少なめでも氣にならなくなりました。

矢は真っ直ぐで、あそこに書いてあるのは矢の如し。「直言矢の如しは」は『詩経』の中に入っている科白です。そこでだしたのは絡まない、真っ直ぐ。どういう力があっても真っ直ぐだという。そのたわまず、たわむというのは曲がらないという意味だから。私の曲がります。矢は真っ直ぐいくけれども直線です。

これは体験談で、昔、弓道をやっておりました。日置（へき）流です。日置流というのは遠くに向かってではなく、すぐ瞬間的に引いて離す。これは習いたてほやほやで初めて矢を射たの時の話です。よく狙いを定めて矢を放ったつもりが、的に当たるかと思ったら道に出ていった。普通は真っ直ぐ飛んで的に当たったり、下に落ちたりしますが、矢が屋根に当たって跳ね返って道路に出た。危ないね。自分の腕は棚に上げますが、周りにフェンスを作るべきだと私は思います。それからいくと「矢の如し」というのは、真っ直ぐいきます。障壁にぶつかると真っ直ぐどこかへ飛んでいく。

「足るを知る」という言葉が、私共のベースにあります。何か欲しい物がある。何かしたいと思ったら「ほどほど」ということが出れば良いと思う。

毎日生きていく中で何かしたいとか、お腹がすいてご飯が食べたいというような感じで誰か人に会いたいって思うかどうか。あの人に会いたいと強く思う。

「憤」という文字です。または食べたいとか会いたいとか聞きたい。どうでしょう最近、会いたい人に会いたいと思ったことはないですか？

それで会いましたか？

会員一會いました。

それはいいですね。



何かを見たい。とても強烈に思ってた人？

…有難うございます。

あの人に会いたいと思い、会ってきた。見たといったら、見た。そう感動です。

この間、会社の若い人達に「最近ここ 1 ヶ月の間で会いたいと思った人はいるか、見たいと思った人はいるか」と聞いたら、誰も手を挙げなかった。仕方がないから「何か驚いたことや、びっくりしたことはないか」と聞いたら、やっと 2 人が手を挙げました。

夫婦で原宿を歩いていたら、イベントをやっていたので入ってみたら、普通のイベント会場で遊んで楽しいという気持ちになるけれども、そこは写真を撮らせネットで拡散させるために来た人達を優遇する。今この場所にはいない人を、目にみえない人を呼び集めるために、集まった人達に広告を打って貰うような仕掛けだということです。原宿のイベント会場に行ったら日本のマーケティングが根っこから変わったという実感を持ちましたということです。それが驚きでしたという人がいた。

ということで、人に会いたい。何かを見たい。そういう気持ちがないと、感動する心が薄れると思います。ぜひ、そういう気持ちをお持ちになっていただきたい。これが「足るを知る」という心の中に直結する入口だと思います。

## 今月のテーマ「師」

師匠というのは、だいたい人を鍛えるときに相手に魯鈍になれ、小賢しい知恵を使うなと言いますね。

これは天風先生に教わった方が書いた本の中に、やはり病気でどうにもならない。私はもう死ぬしかないなと思っていましたが、天風先生に巡り会って、お前はちょっと理屈でガチガチになっているから馬鹿になれ、魯鈍になれということを知った。言われたことを言われたように馬鹿になってやってみたら、いつの間にか病気が治ってしまったということが書いてありました。

魯鈍というのはとても良いことです。師匠の存在というのは、お前は馬鹿になってこれだけ一筋にやってみろということを知ってくれる人。教えてくれる人。これ師匠だと思います。

先ほど国井さんに言われたことを申し上げますが、師匠から言われたことをそのまま実行する。天風先生は自分の師匠から、獐猛な虎のいる檻の中に「ちょっと入ってごらん」と言われた。まだ飼い馴らしていない野生そのものみたいな虎がいる檻。そのとき天風先生は「はい分かりました」と言って、すっと入ったら虎が懐かしげに寄ってきた。他の人達が虎のいる檻の前を通ると牙をむいて吠えかかる。獐猛な虎の檻の中に入れという師匠

も師匠だけれども、素直に入る天風先生も天風先生です。師匠の力というものは凄いなと思います。黙って言われたら、どうぞ「はい」と言って動くような存在。

師匠を生きている間に、ひとりでも良いから見つけると良いですね。見つからなければ本の中で見つけると良いと思います。

有難うございました。